

令和2年度の測定結果

有害大気汚染物質は、長期曝露による健康リスクが懸念されているため、年平均濃度を求め、評価しています。

1. 環境基準が設定されている物質

4物質全てで環境基準を達成していました。また、経年的にみるとほぼ横ばいでした。

物質	環境基準 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	最大値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	最小値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
ジクロロメタン	150	1.1	1.5	0.54
テトラクロロエチレン	200	0.076	0.18	0.023
トリクロロエチレン	130	0.82	6.0	(0.016)
ベンゼン	3	0.63	1.2	0.11

2. 指針値が設定されている物質

11物質全てで指針値を達成していました。また、経年的にみるとほぼ横ばいでした。

物質	指針値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	最大値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	最小値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
アクリロニトリル	2	0.016	0.12	(<0.004)
塩化ビニルモノマー	10	0.018	0.11	(<0.005)
塩化メチル	94	1.4	1.6	1.3
クロロホルム	18	0.16	0.25	0.075
1,2-ジクロロエタン	1.6	0.094	0.26	0.022
1,3-ブタジエン	2.5	0.052	0.13	0.024
アセトアルデヒド	120	2.0	3.8	0.41
ニッケル化合物	0.025	0.0017	0.0041	0.00061
ひ素及びその化合物	0.006	0.00078	0.0022	0.000094
マンガン及びその化合物	0.14	0.013	0.028	0.0025
水銀及びその化合物	0.04	0.0017	0.0023	0.00064

ひ素及びその化合物の欄に示した指針値は、ひ素及び無機ひ素化合物の指針値です。

3. 環境基準等が設定されていないその他の有害大気汚染物質

経年的にみるとほぼ横ばいでした。

物 質	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	最大値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	最小値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
トルエン	3.8	11	0.90
ホルムアルデヒド	2.0	3.0	0.88
ベリリウム及びその化合物	(0.000006)	(<0.000013)	(<0.000009)
クロム及びその化合物	0.0022	0.004	0.00080
ベンゾ[a]ピレン	0.000057	0.00014	0.0000046
酸化エチレン	0.044	0.11	0.016

備考

- 1 最大値及び最小値は、測定値が検出下限値未満であった場合は、『 (< 検出下限値) 』、検出下限値以上定量下限値未満であった場合は、『 (測定値) 』として表示しています。
- 2 年平均値は、環境省の集計方法に従って、各月の測定値が検出下限値未満の場合は検出下限値の 1/2 を、その他の場合はその測定値を採用し、算出しています。